

2018 年度活動報告 CJP 授業：アカデミック日本語

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、日本語能力試験 N1 程度の日本語力を持ち、正規学部生とともに、一般授業を履修する学生を対象としたものである。大学の一般授業で求められる総合的な日本語力を身につけることを目指しており、週 2 コマの授業のうち、1 コマを文章表現、もう 1 コマを口頭表現としている。今年度の履修者は、春学期 8 名、秋学期 6 名であった。

2. 授業内容

文章表現クラスでは、資料・参考文献を用いて、論文を執筆できるようになることを目標としている。今学期も NHK の「視点・論点」の中から、論文の流れに近い構成のものを視聴し、その問題意識からどのように研究していくかをクラスで考えた。その後、各自がテーマを設定し、テーマに関する資料・参考図書を検索、使用して論文を執筆した。執筆途中の課題および執筆した論文はクラス内で公開し、フィードバックを行った。

口頭表現クラスでは、意見文を読み、問題の背景や筆者の主張とその根拠を正確に読み取ること、その上でその内容を他者にわかりやすく伝えることを目標とした。具体的には、3つのグループに分かれて、朝日新聞の「私の視点」からそれぞれ異なる記事を読み、互いにその内容を報告し合う活動を行った。また、記事の内容を報告するだけでなく、筆者の主張に対するグループの意見も合わせて発表した。授業には、ラーニング・アシスタント(LA) として正規学部生にも加わってもらい、様々な意見を交換しながら、活動を行った。

3. 成果と今後の課題

学期末アンケートによる学生の満足度は、概ね高かった。

今後の課題として、文章表現クラスでは、単なる興味だけでなく、資料が集められるか否かという点を含めたテーマ設定に重点を置いた指導を、さらに行っていきたい。

口頭表現クラスでは、一般授業には講義型のもも多く、学生によっては日本に留学に来ていながら、日本語を話す機会がほとんどない者もいるようであるため、授業を「アカデミックな文脈で日本語を話す場」また「安心して日本語でコミュニケーションできる場」と捉え、今後も様々な形で日本語を話す機会を提供していきたいと考えている。